

研修目標と研修内容について

職種名「心理療法士レジデント」

1 概要

がん医療における心理社会的支援に関わる知識と技術の習得を通じて、がん医療に精通した心理療法士を養成する。

2 研修での到達目標

1) 一般目標

がん医療における心理社会的支援に関わる知識と技術の習得

2) 行動目標

- ・ がん患者、家族に対する支援に必要とされるがん医療についての基本的知識を習得する
- ・ がん患者、家族の心理社会的苦痛をアセスメントできる
- ・ がん患者、家族に対して、アセスメントに基づいた心理社会的支援を行える
- ・ 多職種チーム医療における心理職としての役割を理解し、他職種と協働できる
- ・ 現場のニーズに応じてコンサルテーションを意識した活動が実践できる

3 実習内容

1年目は主に、実習指導者のもとがん医療・緩和ケアにおける心理職の基本的な役割を理解し、実際のがん患者・家族への支援の経験を積む。これまでの臨床経験を踏まえ、習得度に応じて呈示された課題に取り組む。2年目は、個々のケースへの心理サポートを通じた学びをケース・カンファレンスでプレゼンし、事例研究へと発展させることを課題とする。また、スタッフへの支援を含めたコンサルテーション活動についても知識や技能を習得する。

a) がん患者、家族に対する支援に必要とされるがん医療についての基本的知識の習得

- ・ がん医療、緩和ケアに関する基本的知識を持ち、医療用語を理解する
- ・ 学会や研修会、院内の臨床腫瘍学コースの受講等により、知識をアップデートする

b) がん患者、家族の心理社会的苦痛に対するアセスメントの実習

- ・ 基本的な心理学・心理療法の基礎的な知識をがん医療に応用し、心理的介入の計画を立てる
- ・ がんに伴う心身の苦痛についてアセスメントする
- ・ 患者の生活史や家族背景に基づき患者・家族が抱える問題を見立てる
- ・ 精神医学的知識に基づいて判断できる

c) がん患者、家族の心理社会的苦痛に対する支援の実習

- ・ がん患者・家族の心情に配慮して関わる
- ・ 中立的な立場でがん患者と医療者に対応する
- ・ 病状に応じた意思決定支援を行う
- ・ 危機介入について学ぶ
- ・ グリーフケアを実践する

d) 多職種チーム医療における心理職としての役割を理解し、他職種と協働するための実習

- ・ 多職種チーム医療における心理職の役割を理解して活動する
- ・ 他職種の専門性を理解し関係を構築する

- ・他職種に心理職の専門性を伝える
- e) 現場のニーズに応じたコンサルテーションを意識した実習
 - ・カンファレンスに参加し、臨床心理学的な見地から意見を伝える